

6/11 交通安全祈願でライダーの安全を願う #オマエザキライダー新バイク駐車場のお披露目会を実施



灯台下のみさきの広場駐車場に新たに整備されたバイク専用駐車場のお披露目会が6月11日に実施されました。

新バイク専用駐車場は、ライダーが安心して利用できる環境を整えるとともに、御前崎を訪れるライダー同士の交流や地域のにぎわい創出を目的に整備されました。

市内外から80人のライダーが参加し、新たな交流拠点の完成を祝いました。白羽神社、駒形神社の高山國臣宮司による交通安全祈願が実施され、参加者はツーリングの安全と市内の交通安全を願いました。参加者からは、「気軽に立ち寄れる場所ができてうれしい」「ツーリングの楽しみが増えた」など、今後の活用に期待する声が聞かれました。



上：新たに整備されたバイク駐車場とライダーのバイク
左下：多くのライダーが集い、交流を深めました
右下：ツーリングの安全と市内の交通安全を祈願しました



6/16 まちの現在と未来について学ぶ 浜岡中でシティプロモーション講座を実施

浜岡中学校3年生165人が6月16日、「シティプロモーション出前講座」を通じて市職員から市の取り組みについて学びました。

今後は総合的な学習の時間を通じてまちの魅力や課題を考え、市への提案づくりに取り組みます。学年主任の佐藤大輔先生は「まちの未来を主体的に考えてほしい」と話しました。

◀市職員の講義を真剣に聴く生徒



6/23 税金の重要性について知る 浜岡東小で「租税教室」を実施

税の必要性や役割についてを学ぶ「租税教室」が6月23日、浜岡東小学校で開催されました。

市税務課職員が講師となり、動画視聴やクイズを実施し、税金がさまざまな公共サービスに使われていることを説明しました。6年生56人は、講師の話熱心に聞き、税の重要性について理解を深めました。

◀税金の仕組みを学ぶ児童



6/13 「海のゆりかご」の役割を学ぶ 久々生海岸でアマモ観察会を実施

市は、二酸化炭素吸収源であるアマモ場をカヤックから観察する体験会を6月13日、御前崎港マリナで実施しました。

19人の参加者は、久々生海岸の保全活動に励むNPO法人Earth communicationの川口真矢さんからアマモ場の役割を学びました。参加者の大橋真人さん(塩原)は、「カヤックに乗りながら学ぶことができ、有意義だった」と話しました。

◀カヤックからアマモを観察する参加者



6/15 アカウミガメの足跡から卵を発見 ロングビーチでアカウミガメが初産卵

6月15日早朝、広沢区の海岸でアカウミガメの産卵が確認され、卵134個がふ化場に移植されました。

今季初の上陸・産卵で、初産卵日は昨年と同じでした。ウミガメ保護監視員の良知正美さん(塩原)は、「今年は上陸が中々なくとても不安だったが、産卵を確認できてほっとしている」と安堵の表情を見せました。

◀卵をふ化場に移植し、ふ化まで見守ります



6/19 自分で育て、収穫し、味わう はまおか幼稚園で「食育カレー作り」を実施

自分たちで育てた食材を調理し、味わう体験を通じて、食べ物を大切にすることを育む「食育カレー作り」が、6月19日にはまおか幼稚園で実施されました。

年長児19人は、園内で育てたジャガイモを収穫し、カレー作りに挑戦しました。園児たちは包丁やピーラーの使い方を学びながら調理し、おいしく味わいました。

◀市栄養友の会の補助で、ニンジンのカットする園児



6/28 団員の活動を支える家族への感謝を込めたイベント 地域を守る力「消防団フェスタ」を開催

市消防団は6月28日、地域住民や団員の家族に消防団活動を身近に感じてもらう「消防団フェスタ」をマリンパーク御前崎で初開催し、約400人が来場しました。

消防車や救急車などの緊急車両を展示したほか、消防団車両の乗車体験を実施。来場した家族は、父親が運転する消防団車両に乗車し、うれしそうな表情を見せていました。

◀消防車に乗って敬礼する消防団員の家族



6/25 手洗い週間で感染症予防 白羽のんのん英育園で「手洗い教室」を実施

食中毒を予防するために正しい手の洗い方を学ぶ「手洗い教室」が6月25日、白羽のんのん英育園で実施されました。
園児31人は、食事の前には必ず手を洗うことやせっけんを使って丁寧に洗うことの大切さについて学びました。また、実際に手を洗いながら、汚れが残りやすい部分を確認し、正しい手洗いの方法を身に付けました。

◀手の洗い方を学ぶ園児



7/6 安定したウミガメ保護に役立てる NOK静岡株式会社が監視カメラを寄贈

アカウミガメのふ化状況を安全かつ効率的に監視するため、7月6日にNOK静岡株式会社から市へ監視カメラが寄贈されました。
寄贈された監視カメラは、ふ化場を確認するために活用されます。市では、寄贈品を有効に活用し、子ガメが安心してふ化できる環境づくりと、安定した保護活動に努めていきます。

◀吉村教育長は「ウミガメの産卵・ふ化環境の保全に努めます」と話しました



7/8 海外を経験し、大きな夢をもってほしい 株式会社望月塗工へ紺綬褒章を伝達

市に公益目的で高額寄付をした株式会社望月塗工に紺綬褒章が贈られることとなり7月8日、市役所で下村市長が増田樹代表取締役役に伝達しました。
同社は、次世代を担う子どもたちの国際感覚を養うことを目的に、1990年から毎年寄付を続けています。昨年は、6月26日に国際交流事業資金として1,000万円を寄付しました。

◀増田樹代表取締役は「国際交流の役に立てたらうれしい」と話しました



7/9 スポーツを通じて持続的な地域の発展に資する 市と株式会社フェニックスが協定を締結

市と株式会社フェニックスは7月9日、「スポーツを通じた地域活性化に関する協定」を締結しました。
同社は愛知県東三河地域と静岡県遠州地域を活動拠点とするプロバスケットボールチームを有し、これまで市内小学校で体験教室を開催してきました。本協定により、所属選手が市の「応援リーダー」となり、まちの魅力を発信していきます。

◀岡村秀一郎代表取締役は「子どもに笑顔を届けられるよう活動に励む」と語りました



6/30 稚魚の放流で命の大切さを実感 浜岡東小児童がマダイを放流

浜岡東小学校4年生を対象とした「マダイの放流体験」が6月30日、御前崎港マリーナで実施されました。
本事業は、栽培漁業や種苗生産への理解を深めるとともに、次世代の水産業を担う人材の育成が目的です。児童35人は、放流するマダイの稚魚に「大きくなってね」と声を掛けながら海へ送り出しました。

◀自らの手でマダイの稚魚を放流する児童



7/7 子どものそばにいてできること 新米パパ・ママ乳幼児救急講習会を開催

新米のパパ・ママを対象とした乳幼児の救急講習会が7月7日、市消防本部で開催されました。
6組の親子が参加し、小児・乳幼児の救急事案の紹介や心肺蘇生法、のどに物を詰ませた時の対処法などを実践方式で学びました。市消防本部では、救命講習などの普及啓発活動を継続していきます。

◀のどに物を詰ませた時の対処法を救急隊員から学ぶ新米ママ

7/11 ウミガメの命と海の自然を学ぶ ウミガメの保護活動を体験



◀牡蠣殻でアカウミガメの卵を掘り起こす模擬体験をする参加者
▼保護監視員からウミガメの生態系や保護活動について学ぶ参加者



ウミガメ保護監視員から保護活動について学ぶ見学会が7月11日から20日にかけて5日間開催され、県内外から総勢154人が参加しました。
参加者は朝5時に集合し、ウミガメ保護監視員と共に海岸を巡視したあと、卵が移植されているふ化場を見学。12日と20日には夜間にウミガメの産卵があり、産み落とされた卵の掘り起こしを見学することができました。
静岡市から訪れた岩崎晴さんは、「模擬体験でウミガメが産卵した後の穴を掘り当てることが楽しかった。また参加したい」と笑顔で話しました。